

平成25年度「奈良TIME」学習研究発表会実施報告

1 目 的

郷土の伝統、文化、自然等に関する学習において、生徒の活動に関する発表の機会を設け、生徒・教員の学習や研修に資することで、高等学校における学習活動の活性化や学習指導の円滑な実施を図ります。

2 期 日 平成26年 1月24日（金）

3 場 所 県立教育研究所（磯城郡田原本町秦庄22-1）

4 参加者数 約170名（教員100名、生徒70名）

5 日 程 13:15～ 開会式

13:30～ 研究発表 I・研究発表 II

15:20～ 講 演

研究発表 I

◆登美ヶ丘高校



キャリア教育の全体計画と連動しながら、フィールドワークなど体験的な活動に取り組み、課題を見付けながら奈良の今と未来を考えました。

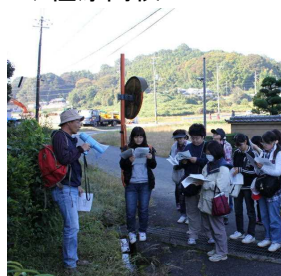


◆吉野高校



専門学科として、授業の中で奈良の原風景である森林の現状や、産業としての今後の活用について学びました。平成26年度からは学校設定科目を設置する予定です。

◆橿原高校



学校の立地を生かして、飛鳥をテーマに、歴史遺産の価値や魅力を総合的に学び、発信力の育成を目指しています。国立教育政策研究所による研究指定を受けた取組です。

研究発表 II

「奈良TIME」の実施に先立ち、郷土の伝統、文化等について探究的な学習に取り組んできた2校の、「西の京高校・『地域フォーラム』」、「法隆寺国際高校・『ユネスコフォーラム2014』」から、それぞれの代表生徒による発表が行われました。

講 演 「いまに生きる古代の道 — 横大路・発掘 —」

二上山から三輪山まで、奈良盆地を東西に貫いた最古の官道「横大路」。その遺構の発掘に関わられた経験から、古代の道のもつ意味を考えます。

講 師 今尾 文昭 先生（いまお ふみあき：県立橿原考古学研究所附属博物館学芸課長。専門：日本考古学・古墳時代・地域史。著作：『律令期陵墓の成立と都城』（2008）、『古墳文化の成立と社会』（2009）など。）